



Akajima Marine Science Laboratory 阿嘉島臨海研究所

〒901-3311 沖縄県島尻郡座間味村字阿嘉179

ホームページもご覧下さい。http://www.amsl.or.jp

TEL:098-987-2304 FAX:098-987-2875 E-mail:amsl@oki-zamami.jp



●クラゲに乗って

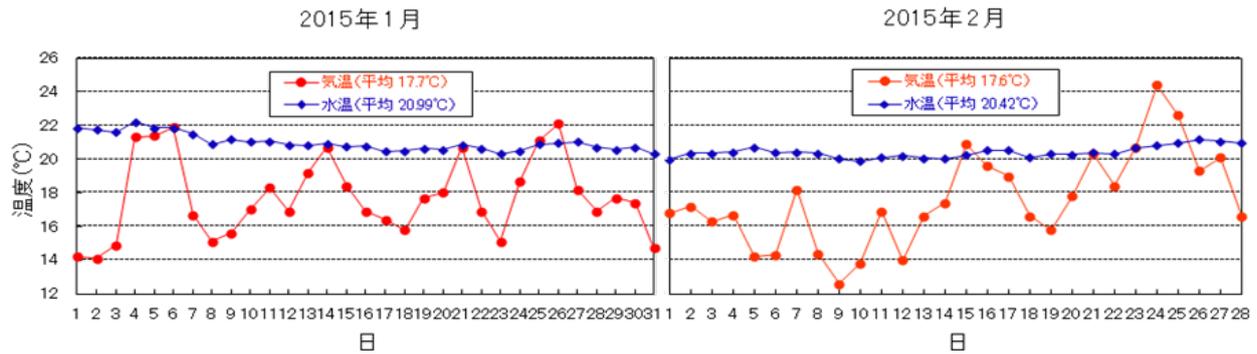
ーセミアビのフィロゾーマ幼生ー

3月になりました。ひとところに比べれば少し暖かくなりました。けれども、まだ北風はずいぶん冷たく、天気の悪い日や朝晩は肌寒く感じます。海の温度もまだ21℃くらいです。早く暖かくなってもらいたいものですが、過去の月ごとの平均水温のデータを見ると、残念ながら3月は1年の中で1番か2番に低い月で、水温が上がり始めるのは多くの年で4月に入ってから、または4月の半ば過ぎになってからです。ですから、もうしばらくは冷たい水を覚悟しなければなりません。この冬場から水温が上がり始めるまでの時期に楽しみなのはクラゲの出現です。夏場にも見られるクラゲが結構たくさんいますが、それらはミズクラゲなどの鉢クラゲ類や透明で小さなニチリンクラゲなどの剛クラゲ（ヒドロクラゲ類）が主です。この寒い時期に現れるのは、まずは12~2月ごろまでに多いのがチョウクラゲやオビクラゲなどクシクラゲの仲間や、ときにはヨウラククラゲなどの

くだ管クラゲ（ヒドロクラゲ類）、そして3月から水温が上がり始める頃に、時々カツオノカンムリやギンカクラゲなどヒドロクラゲでも群体性の花クラゲ類が姿を見せます。絶対にというわけではありませんが、このようにクラゲの種類によって姿を見せる時期がおおまかに決まっています、目にするクラゲの種類によって季節を感じることができるのです。と書いてきましたが、今回のアムスルだよりでご紹介するのはクラゲではありません。クラゲに関連する話ですが、主役は前号に引き続き、イセエビやセミアビのフィロゾーマ幼生です。

前号はイセエビを人の手でふやす話をしました。その終わりに、イセエビ類やセミアビ類のフィロゾーマの消化管しょうかかんの中からクラゲの残骸ざんがいが見つかり、試しにクラゲを餌にして飼育したところフィロゾーマの成長が良かったという研究があることをお話しました。フィロゾーマは、海の中で本当にクラゲを食べているのでしょうか。実は、食べているどころではなく、クラゲと一緒に生活しているという報告がたくさんあるのです。例えば、カリブ海からはセミアビの仲間のヒメセミアビの一種の幼生がミズクラゲに取り付いていて、その割合はミズクラゲ全体の20%にも達していたという調査結果があり、それ以外にもこれまでオーストラリア、スペイン、そして日本からもクラ

定点観測



ゲに乗ったセミエビ類のフィロゾーマの観察例が報告されています。中国の古書には「クラゲはエビの目を借りる」という話があるそうですから、この現象は古くから知られていたのでしょうか。近頃は、その様子をとらえた写真もたくさんあります。そして、そのクラゲに取り付いてくらすフィロゾーマにつけられた愛称が「ジェリーフィッシュライダー（クラゲ乗り）」です。

では、ジェリーフィッシュライダーは、クラゲに乗って何をしているのでしょうか。先に書いたように、一つには餌として食べているのでしょうか。実際にフィロゾーマがクラゲを食べているところも観察されていますし、クラゲを餌にしてフィロゾーマが良く育つことも前に書いたとおりです。そして、それだけではなく、クラゲに乗って移動することで、泳ぐために必要なエネルギーを節約しているとも考えられています。また、クラゲは小さな毒針である刺胞をもっていますから、外敵から身を守ることもできると考える研究者もいます。つまり、フィロゾーマは、敵に食べられるかもしれない危険に身をさらしながら単独で漂い、^{ただよ}ちょこちょこ泳いで餌を探して食べる暮らしから、クラゲの存在によって、身を守ってくれる乗り物に乗って、おまけにそれを餌として食べることもできるという、便利で安全で楽な生活をおくれるようになって

いるということです。なんだかうらやましく思えるほどです。

まだ実際のジェリーフィッシュライダーをこの目で見たことはなく、ぜひ一度は見てみたいと思っています。資料によるとフィロゾーマに乗ったクラゲは、ミズクラゲやオキクラゲなど、慶良間では夏に現れるクラゲたちのようです。さて、慶良間にもジェリーフィッシュライダーがいるのかいないのか、ますます夏が来るのが待ち遠しくなってきました。

● 阿嘉島の海より

3月5日はサンゴの日です。そして、この日は、慶良間諸島が国立公園に指定された日でもあります。先日のサンゴの日には、阿嘉島の離島総合センターで、国立公園一周年記念イベントが開催されました。主催は座間味村商工会青年部で、阿嘉島の青年会や婦人会の協力のもと、座間味村の三つの島の住民が集まり、食事やお酒、余興を楽しみながら、座間味村のこれからについて語り合いました。

座間味村は3島で1村という県内でも特殊な環境にあります。そのため他の市町村にはない大変さもありますが、このような機会を通じて三つの島の住民が懇親を深めることはとてもいいことではないでしょうか。

